



# 令和 5 年度 教育学部・学校教育学研究科 個人評価の集計・分析

---

企画・評価委員会

2024 年 6 月

---

| 目次             |       | ページ |
|----------------|-------|-----|
| 1 個人評価の実施状況    |       |     |
| （1）実施率等        | ----- | 2   |
| （2）実施概要        | ----- | 2   |
| 2 評価領域別の集計及び分析 |       |     |
| （1）教育の領域       | ----- | 3   |
| （2）研究の領域       | ----- | 17  |
| （3）国際・社会貢献の領域  | ----- | 20  |
| （4）組織運営の領域     | ----- | 33  |
| 3 全体総括         | ----- | 34  |
| 4 図表           | ----- | 34  |

## 1 令和5年度個人評価の実施状況

### （１）実施率等

令和5年度個人評価では、対象となる教員の98%が活動実績の提出を行った（表1）。休職中教員と学校教育学研究科の客員教員を除いた未提出者は1名であった。今回から教員全員に対して当該年度内に「個人評価様式2及び3」の作成・提出を依頼することとしたため、退職者（1名）にも提出していただくことができた。

表1

### （２）実施概要

令和6年3月に、各教員に「令和5年度 個人評価活動実績報告（様式2,3）について」と題した提出依頼メールを送付した。「令和5年度分個人評価様式2及び3」の提出は企画評価委員会の各グループの委員宛であり、各グループのデータを委員が集計した後、学部全体で集計した。3年前から継続しているエクセルを用いた集計作業の労力軽減の取り組みにより集計から報告書作成までの実務作業を円滑に行うことができた。

## 2 評価領域別の集計及び分析

### （１）教育の領域

#### [1] 授業担当時間数

##### <概要>

表2に、担当授業時間（教員グループ別）を示した。

表2

学部教員は4つのグループ（幼小連携教育、言語社会系、理数系、実技系）に所属している。学部附属教育総合実践センターの教員4名は幼小連携教育グループに含めている。

学部・教職大学院の担当授業時間総数は、教員総数1名増加し、昨年と比べて588時間増であった。教養教育担当時間数合計は42時間増、学部担当時間数合計は795時間増、大学院担当時間数合計は249時間の減少していた。単純計算で教員1人あたり授業担当時間総数は、昨年と比べて4.9時間の微増であった。ただし、過去4年比でみると、学部・教職大学院ともに増加傾向にあり、全体では過去4年比で36.6時間増加している。

学部教員の担当授業時間は、グループにより異なっている。教員1人あたり授業担当時間数は、実技系Gが430.5時間と最も多く、幼小連携G300.8時間、言語・社会系G273.7時間、理数系G263.3時間である。教職大学院教員の担当授業時間は、1人辺り442.7時間である。昨年と比較すると、幼小連携G7.3時間増、言語・社会系G30時間増、理数系G28時間増、実技系G40.3時間減であった。教職大学院教員は、4.9時間増加していた。

##### <特記事項>

特になし

##### <総括>

学部担当教員及び大学院担当教員はそれぞれ所属する組織の科目を担当した上で、教育学部担当教員は教職大学院の、教職大学院担当教員は学部の科目を担当するという、相互乗り入れの形が維持されている。昨年比では、教員数の増減に伴う時間数の増減の変化に留まる部分が多いが、過去4年比では全体で教員1人あたりの授業担当時間数が36.6時間増加しており、5年間で最も高い数値となっている。質保証の観点から、妥当な時間数について検討していく必要がある。

## [2] 教育改善

### <概要>

表3に、教育改善の実績数を示した。

表3

### (1) 授業内容及び授業方法の改善

内容の改善（最新研究成果の取り入れや理論と実践の往還の実現など）、方法・実施形態の工夫（ICT機器の活用、人材活用、グループワーク、フィールドワークなど）、評価の工夫など、多岐にわたる教育改善の事例がみられた。

#### ○内容改善（最新研究成果の取り入れ、理論と実践の往還など）

- ・ 改訂された知能検査 WISC-V に関する演習（検査、採点、アセスメント）を行った
- ・ ICT に関する教育方法が新たに加わったため、模擬授業の方法を ICT の利用を重視した内容に改善した。
- ・ 状況学習論に基づく中学校社会科公民的分野の授業づくりに関する講義と、その講義をベースにした学習指導案づくりを行った（理論と実践の往還）。
- ・ 一昨年度の反省を踏まえ、講義内容を距離空間から非ユークリッド幾何学に変更した。抽象的な議論を抑えつつ、具体例を通して、距離空間やリーマン幾何学についても紹介した。
- ・ 実践的性格の強いコダーイ・メソッドを紹介した。
- ・ 修了生の研究論文を事例として活用して理論と実践の往還がイメージしやすいように努めた。
- ・ 温湿度測定と電力消費量調査を取り入れた。
- ・ 中年期の危機などに関するトピックを大幅に改変した。

#### ○方法、実施形態の改善

##### <授業の双方向性の向上>

- ・ レポートやメール等で寄せられた質問や要望を参考に授業内容を検討したり授業の進め方の改善を図った
- ・ コメントペーパーを活用した関心や疑問点の共有化：毎時限終了時に講義に関する質問・感想などを記入してもらい、それらを取りまとめた質問表を作成する。そして、次回講義の冒頭に質問表を配布し、教員が各質問に回答をおこなう。こうすることで、受講者は自らの疑問を解決すると同時に、他の受講者がどのような疑問や関心を持っているのかを知り、それ

らを共有することによって、当講義における受講生自らの習熟度の理解につながった。

- ・ Forms によるリフレクションを実施してフィードバックの質の向上に努めた。
- ・ 課題レポートに対する個別的な講評・添削を通じた双方向的な論述指導

#### <グループワーク等>

- ・ 現職学生が現任校での実践を紹介し、学部卒業生等学生とともに学習課程に関する理論の理解を深めた。その上で、校種・教科を絞ったグループを編成し、教育課程編成作業を体験することで模擬的に理論と実践の往還を行った。
- ・ 現職学生とストレートマスターでチームを組み、現代的な学力育成を意識した「総合的な学習(探究)の時間」の授業づくりを行った。

#### <演習、事例活用、フィールドワーク、ゲストスピーカー>

- ・ 実際のデータ収集の実地体験として、附属小学校での授業観察を実施した。
- ・ 先行研究における事例や教育実習等のリフレクションレポートの事例を活用した演習に取り組んだ。
- ・ ミシンを使うこと苦手だという学生が多いため、実習にて安全指導を加えて実習を取り入れた。
- ・ 机上学習ではなく、実際に近隣学校（小・中・高）の通常授業見学を実施、ディスカッションにより能動的な授業展開へ改善。
- ・ 野外調査において、単に地理学的な調査方法を学ぶだけではなく、社会科見学を実施し、将来教員になった際に有効な知識を得るための時間を設けるようにした。具体的には、長崎県佐世保市において、空襲資料館や海上自衛隊の資料館の見学を実施した
- ・ 住宅設備機器のショールームおよびミュージアムの見学を行った
- ・ 教員の生の意見を受講生に届けるため、教職大学院現職教員学生をゲストスピーカーとして招き、受講生との質疑応答・意見交換の機会を設けた。
- ・ 探究実習で授業のデータ分析の必要があるため、授業研究の方法論を座学で学修した後、附属小学校で実際授業を参観し、データ収集、理論に基づいた分析を行った

#### <教材の工夫>

- ・ 映像教材を多く取り入れ、視覚的效果を高めた。また授業時間外に学修してもらうために、復習と予習に関する問題を毎時間課した。
- ・ 学ぶ意欲に関する研究を概観する資料、参考文献リストを配布した。
- ・ 心理学研究法、心理統計法に関する演習用データセットの開発を行った

- ・ 障害児の学習指導のビデオや資料を活用して受講生の理解が深まるよう配慮した。

#### <ICT 機器、オンライン環境の活用>

- ・ ハイブリッドでの授業の体制を整え、学生の多様なニーズに対応した。
- ・ Zoom を用いたハイフレックス型授業を実施し、対面式と遠隔式の利点を活かした授業を実施した。また、その内容を録画し、後日、受講者限定でオンデマンド型により公開して、復習に利用できる環境を提供した。これらの情報は、MS-Teams などを用いて通知し、質問も受け付けた。
- ・ 受講生の意見をリアルタイムで集計できるサービスを用いて視覚的なアクティブ・ラーニングを行った。
- ・ 技能で筆使いや特徴を理解しやすくするため、毎時、実技における動画を撮影し、受講生が授業時に繰り返し見られるよう工夫した。

#### <組織連携、人材活用>

- ・ 高度なサッカー技術や戦術を教授していくため、補助コーチとして大学院生を活用し、ルールから具体的練習法の獲得まで、幅広い内容での展開を実現できた。
- ・ デザイン思考のプロセスにより教育活動の構築を行なった。さらに長崎大学と共同授業を行った。

#### <授業構成>

- ・ 授業づくりのグループワークを取り入れるとともに、グループワークを円滑に進めるための手立ても講じて、理解を深めるようにした。
- ・ 前年度まではコロナ対応のため全面オンラインで実施したが、当該年度の担当箇所（後半）に関しては、受講者のより深い理解を促すべく、対面で実施した。
- ・ キャンパスライフサポーターの制度の改変をおこなった。各学部の大学入門科目で実施した。
- ・ スキルプログラムの発表会を試験日に設けるなど、準備・発表・院生間のFB までの流れをととのえた。

#### <課題、評価の工夫>

- ・ 3段階にわけたワーク課題資料を作成した
- ・ 自宅調理の評価項目の見直しを行った。

- ・ 前期の反省点を受け、あえて未完成のスライドを作成し、学生との対話で授業内で完成させるなど工夫をした。また学期末にはプレゼンを行わせ、それを評価対象とした
- ・ ICT教材のループリックを改善して課題評価を実施した
- ・ ジグソー活動のループリックを改善して課題評価を実施した

#### ○授業評価・学生ニーズに基づいた改善

- ・ 授業評価を踏まえて、学生による発表の資料作成についてアドバイス等行い充実させ、発表後の論点についても、助言を行い、グループワークで思考が深まるように工夫した。
- ・ 授業評価を踏まえ、より実践的な学びになるよう学校の様々な問題と教育法規を関連付ける課題を設定し、議論を行うなど、学生の能動的な学びを促進した。また、回答作成等の演習を増やした。
- ・ 授業評価を踏まえ、様々な危機管理上の問題を課題として設定し、議論を行うなど、学生の能動的な学びを促進した。また、グループワークを増やして、協働的な学びを充実させた。
- ・ 学生の希望を踏まえ、教採で出やすいトピックや教育相談における最近のニュース・トピックについて重点的に解説した。また、最近のデータ等の資料を毎回配布した
- ・ 事前に院生対象にアンケートを行い、関心の高い教育課題条のトピックを重点的に解説するように変更した。また、文部科学省の通知等の最新資料を提供するようにした
- ・ 英語科教育法Ⅰの授業評価の際に「改訂された教科書の活用方法についてもっと詳しく学びたい」という意見が多く得られたため、ICT（パワーポイント資料やデジタル教材）を活用しながら教科書本文の内容理解や導入を行うための言語活動を模擬活動で実践させた。それにより、授業技術の向上を図ることができた。
- ・ 数学の授業づくりに関する実践的な内容を取り入れてほしいという要望が学生からあったので、外部講師として附属中の江口先生の講話や授業参観などを取り入れた

#### ○その他

- ・ 授業改善のために、教職大学院全体で、これまでの修了生調査等をもとに議論した。

ほか多数

#### (2) 授業のための教材等の作成

- ・ 九州各県の単元学習の実践集をまとめ、授業において有効活用した。
- ・ 昨年度のライフヒストリーの記述を冊子にして本授業において有効活用した。
- ・ STEAM教育の実践研究について概括した。後藤・米田・中尾（2024）「我が国における実社会の課題を扱うSTEAM教育実践についての概観」佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要，8，317-336
- ・ コースの教育課程を論文にまとめた。米田重和・後藤大二郎他（2024）「授業実践探究コー

ス修了までのロードマップ」学校教育学研究科紀要，8，906-939.

- ・キャンパスライフサポーター用のテキストを印刷業者に依頼して作成した。
- ・学校現場ですぐに使える自立活動チェックリストを Excel で作成し、演習として大いに活用できた。
- ・肢体不自由児支援のための実物教材を作成し、講義で活用した
- ・Zoom のチャット機能のような双方向性を対面形式でも再現するため、Microsoft Forms を用いた仮装クリッカーを作成し、授業で活用した。
- ・共著『皇帝のいる文学史 中国文学概説』（大阪大学出版会、2015. 4。「人為と自然」（329-369 頁）執筆）を、教材としてアレンジし、授業に用いた。
- ・Geogebra を用いた授業教材を作成した。
- ・熱電対温度計の温度定点(氷水)の容器が破損したため、従来よりも大幅に高度を高めた容器を、3つの素材から作成した
- ・実験動画を作成し、YouTube で公開した。
- ・制作物のオリジナル教材を作成し学生へ配布した。
- ・授業始めのアンケート結果から学生レベルに適した授業教材（楽譜）を作成
- ・調理実習のレシピ集を再編した。

ほか多数

### (3) 教育内容に関する研究活動

担当科目名の中で、各自の研究活動（論文、著書）と教育を取り入れた内容についての記載がされている。

### (4) TA・RA の採用

授業実施補助、科研費課題の実験補助、研究におけるデータ収集に関わる業務を依頼していた。

### (5) HP を通じた全ての担当科目のシラバス公開

担当科目のシラバスについては、オンラインシラバスを参照（シラバスに記載が義務付けられている）。

### (6) HP を通じたすべての担当科目の成績評価の方法・基準等の作成

評価の方法・基準等の作成については、シラバス参照（シラバスに記載が義務付けられている）。

### (7) 教育関係の研修への参加

教育学部・教育学研究科では、FD研修を教授会の開催直前に行うことにより参加率の向上を図っている。

【教育学部・学校教育学研究科主催】

- ・「教育学部における聴覚障害学生への情報保障について―UD トークの使用方法について―」、講師：中島俊思准教授
- ・「本学の科学研究費助成事業関連の状況説明について」、講師：豊田一彦理事
- ・「教員会議に関する説明について」、講師：渡孝則理事
- ・「教育学部の管理運営について」

【その他】

- ・「今話題の ChatGPT とは？ ―教職員のための ChatGPT 入門―」、講師：マイクロソフト社 畠山大有
- ・「PROG テスト詳細について」、講師：河合塾グループ株式会社 KEI アドバンス、主催：教学マネジメント推進室、
- ・「2022（令和4）年12月19日『中教審答申』を読む」講師：平田淳教授、主催：教育学生専門部会
- ・「大学院生との意見交換会（前期分）実施を基に」、司会：平田淳教授、主催：教職大学院
- ・「学生との意見交換会で出された意見」、司会：平田淳教授、主催：教職大学院
- ・「簡易版ティーチング・ポートフォリオミニワークショップ」、講師：山内一祥氏、主催：学務部教育企画課
- ・「令和6年度科研費申請に向けて」、講師：佐藤和也教授、主催：理工学部FD委員会
- ・「STEPS 活動報告」、主催：理工学部FD委員会
- ・「大学における研究とオープンイノベーション及び知的財産の重要性」、講師：生沼寿彦、主催：URA
- ・ACP 講師講習会

(8) リメディアル教育の実施

各授業内で、関連する高校教育の内容のうち、国語（古典ほか）、数学（幾何学基礎、初等数学、関数の極限・連続性、ベクトル、微積分）、英語、物理学（外積、ベクトル解析）、生物（遺伝の法則等）、音楽（ピアノ、ソルフェージュ等）、体育、家庭科（被服学、食物学）などの復習が行われていた。

(9) 公開授業の実施

下記の授業において公開授業の実施が報告された。

- ・高大接続プロジェクト「教師への扉」
- ・心身の発達過程
- ・幼児・児童発達論（教師へのとびら）
- ・教職概論
- ・西洋史（前期）（後期）
- ・現代教育学

- ・英語科教育法Ⅱ
- ・哲学・倫理学
- ・教育実践フィールド演習Ⅲ
- ・地学の世界
- ・サッカーの歴史と技法（前期）
- ・体育心理学

#### (10) その他

- ・開講時期の変更と感染症対策によって、オンライングループワークを取り入れたり、対面の模擬授業を行ったりした。
- ・理科教育学の知見をより多く取り入れるため文献研究をとりいれるとともに、フィールド演習Ⅲとの連携を図った授業検討を行った
- ・受講生の人数の変化に伴い、グループワークの内容を変更して、受講生全体で一つの活動に取り組んだ。
- ・他の授業科目の内容・学修時期を調整して、内容の修正に取り組んだ。
- ・毎回の学生による発表に対し、受講生にはその内容に対する「リプライシート」を提出させ、そこでの質問等に対して発表者が回答するものとして、双方向的な授業展開を心がけた。
- ・全回でチームティーチングを採用した。
- ・附属中学校と連携して、授業参観及び、授業研究を行った
- ・附属小中学校と連携して、授業参観及び、授業研究を行った
- ・授業期間前に事前アンケートを実施し、受講者の理解度や関心度に応じた授業の内容の構成とした。また、各回の授業感想や要望を踏まえ授業内容の改善等を図った
- ・約130名を対象とするオンライン科目であったが、適宜、対面授業を取り入れながら模擬授業を実施させる機会を設け、授業実践につながるスキル向上を図ることができた。
- ・ルーブリック評価を用い、レポート採点を客観的評価とした。
- ・編曲成果に汎用性を持たせるため、クラウドで共有しながらの楽譜作成ソフトを利用したパート譜作成の指導を導入。
- ・Formsによる自己評価の導入

ほか多数

#### <特記事項>

公開授業の実施が14件と過去5年と比べ最も多い数値となった（過去5年平均5件）。

#### <総括>

令和5年度も、内容・方法共に多岐にわたる教育改善・工夫の事例が見られた。研究成果を取り入れた内容の更新、理論と実践の往還を高める工夫などによる内容の改善を基盤に、方法上においてもハイブリッド型の授業形態の工夫などオンライン授業での経験を活かした対面授業のさ

らなる工夫を取り入れている。また、授業の双方向性を高める工夫や学習者同士の協働学習の工夫、演習やゲストスピーカーを取り入れた学習形態の工夫は継続的に行われている。課題物や評価方法の改善なども見られ、授業全体をデザインし直す工夫が行われている。教育改善において、学生評価の声を活かす事例も多く、より質の高い学習機会の提供が目指されている。

### [3] 学生支援の実施

#### <概要>

表4に、学生支援の実施数を示した。

表4

#### (1) オフィスアワーの実施について

オフィスアワーは、教員がその時間帯は必ず研究室等に在室する時間として設定が義務づけられている。

実施内容は、前年度に引き続き、学習相談・学修支援・履修相談・進路相談・生活相談・就職相談・留学相談・教員採用試験対策など多岐にわたる。

実施形態については、規定の時間帯以外に実施されるケースや、オンライン上で実施されているケースが見受けられ、各教員が柔軟に学生の要求に応じていることが窺える。

#### (2) 研究生の指導について

学部では5人の教員による記載があった。

#### (3) 学生研修の引率について

学部では、14人の教員による下記の記載があった。

- ・教職実践フィールド演習Ⅰ（本庄小、附属小・附属中など）
- ・中学生を対象とした英語ディベート指導（附属中）
- ・地理学演習Ⅰに伴う野外調査（長崎県佐世保市）
- ・卒論のためのデータとり（佐賀県立野球場）
- ・こどものまち「ミニさが」のための視察（「ミニふくおか」福岡市）
- ・定期演奏会のための引率（浪漫座）
- ・九州大学1部リーグにおける引率及び指導（監督）他各大会全てで引率（九州国際大学他26回）
- ・学校支援教育ボランティアの学校案内（佐賀市立小中一貫校芙蓉）
- ・テーブルマナー研修（シャトー文雅）

- ・布地サンプル見学（トライアムサンカクヤ）
- ・算数・数学サロン（大町ひじり学園）
- ・卒論準備のための研究会（佐賀県神集島）
- ・佐賀大＋琉球大＋文教大合同ゼミ（琉球大学）

大学院では、7人の教員による下記の記載があった。

- ・実習（学校変革試行・学校課題探求・関係機関実習・基盤実習）の挨拶や指導（佐賀県教育センター、児童相談所、神埼清明高等学校、唐津西高等学校、昭栄中学校、厳木高等学校、大和中学校、有田小学校、神野小学校、中原特別支援学校、大和特別支援学校、伊万里特別支援学校など）
- ・九州教育経営学会第111回定例研究会研究発表（九州大学）
- ・研究発表会、授業参観（附属小中学校）

#### （4）就職のための特別指導について

殆どの教員が記載していた。内容は下記の通り。

- ・教員採用試験対策のための指導  
願書（エントリーシート）、自己PR文、論作文、面接、筆記試験、英会話、実技（体育・音楽）、模擬授業、推薦入試対策、中学校・高校教員採用試験対策（国語科古文）
- ・大学院進学のための指導
- ・民間企業就職のための指導
- ・公務員就職のための指導
- ・教員採用後の適応に関するガイダンス
- ・組織マネジメント能力のために部活動運営を経験させた

#### （5）学生の海外派遣について

下記の記載が見られた。

- ・オーストラリア留学2件（留学準備の指導、留学先情報の提供留学中の指導〈メール等〉）
- ・アメリカ留学1件（留学準備の指導、留学先情報の提供、留学中の指導〈メール等〉）

#### （6）短期プログラム等による留学生指導について

下記の記載が見られた。前年度まではコロナ禍の影響により留学生が大きく減少していたが、当該年度はやや回復傾向にある。

- ・日常生活に関する面談指導など 9件
- ・研究指導 1件

#### （7）学年担任・クラブ顧問について

45件の記載が見られた。そのうちの多くは学年担任（チューター）に関する記載であった。

【学年担任（チューター）等】

チューターには、学年担任としてラーニング・ポートフォリオ（LP）による指導を行なう役割と、教職カルテによる指導を行なう役割（教職チューター）の2つがある。

多くの教員がそれらのチューターを担当しているが、所属学生の多いグループの教員（言語社会系グループなど）に負担が集中する傾向がある。令和4（2022）年度入学生より、新たなチューター制度に移行し、教員一人あたりの担当学生数が平準化される予定である。

なお、高大連携事業「教師へのとびら」における、学年担任（教育学部入学希望者の担任、ポートフォリオへのコメント記入等）に関する記載も見られた。

### 【クラブ顧問等】

教員は、下記のクラブ等の部長・監督・顧問あるいはコーチ等を引き受けている。

- ・ スキー部
- ・ サッカー部
- ・ 女子サッカー部
- ・ 柔道部
- ・ 男子バレーボール部
- ・ 女子バレーボール部
- ・ 男子バスケットボール部
- ・ 水泳部
- ・ 準硬式野球部
- ・ ソフトテニス部
- ・ 佐賀大学ユニキッズ少年スクール
- ・ 佐賀大学吹奏楽団
- ・ 佐賀大学管弦楽団
- ・ クラシックギターハーモニー
- ・ 書道同好会
- ・ 教育ボランティアサークル「ぞうさんのWa」
- ・ よさこいサークル「嵐舞」
- ・ ボランティアサークル「るびなす」
- ・ 発達障害児の運動教室
- ・ 佐賀環境フォーラム環境教育班「えこいく」
- ・ 子どもシェルター「ばるーん」
- ・ 有明会（障害者余暇支援サークル）
- ・ サークル√ （佐賀大学地域支援活動）
- ・ CS ルームの会（障害学生の余暇支援活動）

### (8) 留学生・社会人・障害者の持続的な生活指導等

下記の記載が見られた。コロナ禍により留学生が減少したため、留学生に関する記載は少なかった。

- ・社会人：卒業生の学術雑誌投稿に対する指導
- ・社会人：現職教員に対する指導（単元学習の創造とその指導法の指導）
- ・社会人：現職派遣院生に対する学修支援
- ・障害者：教育学部と他学部の障害学生の支援
- ・障害者：聴覚障害学生に対して合理的配慮の提供が不十分な科目について対応
- ・留学生：合理的配慮の提供に伴うメンタルヘルス相談

#### (9) その他の学生支援

下記の記載が見られた。

- ・教育実習に関する指導（事前・実習中・事後の相談や指導助言）
- ・教員採用試験に関する指導（面接指導、自己PRおよび小論文の添削、推薦書の作成など）
- ・大学院進学に関する特別指導
- ・大学生活に関する特別指導（生活指導など）
- ・ゼミ生、チューター生以外の諸学年の学生の諸相談対応
- ・卒業生の進路・就業などの相談対応
- ・教育実践フィールド演習Ⅰ責任者（責任者として取りまとめや市教委との協議等）
- ・課外巡検の実施（福岡市博多区、山陽地方）
- ・学会参加学生の引率（日本地理学会大会 於関西大学、青山学院）
- ・入学前教育の実施
- ・卒論発表会の実施
- ・コース外大学院生への研究指導
- ・他学部学生教育実習助言
- ・他学部学生教員採用試験対策相談
- ・発達障害児の運動教室説明会の開催
- ・発達障害児への指導方法に関する助言指導
- ・自閉症児への支援の方法に関する助言指導
- ・卒業生に対する社会福祉士国家試験受験対策指導
- ・英語スピーチ・ディベート部（中学校英語現職教諭との勉強会、県内の高校生との英語ディベート練習会を実施）
- ・音楽系課外活動楽器管理（楽器貸し出し、管理に関する業務）
- ・佐賀大学管弦楽団演奏会（定期演奏会の指揮と演奏指導）
- ・大学祭に出演する有志団体の演奏指導
- ・音楽科に学生による定期演奏会に向けての指導
- ・健康教室引率
- ・佐賀市主催スポーツ教室（ビートルキッズ）への学生派遣
- ・学校支援教育ボランティア
- ・外国ルーツの児童生徒を支援する学生ボランティア団体（わーるどりんぐ）
- ・特別レクチャー「保護者対応①②」

- ・キャンパスライフサポーター向けのゲートキーパー研修と交流会
- ・ノートテイクカー研修

#### <特記事項>

コロナ禍が続くなか、数多くの学生支援活動が行われている。

コロナ禍の影響により、令和2年度に、(1) オフィスアワーの実施、(3) 学生研修の引率、(4) 就職のための特別指導、(7) 学年担任・クラブ顧問、(9) その他の学生支援の各項目の記載件数が大きく減少したが、一昨年度より例年並みの件数に回復しており、今年度も堅調である。各教員がコロナ禍に適応しながら、積極的に支援活動を展開していたことが窺える。ただし留学生関連の支援活動は、コロナ禍以前と比べて、今年度も低い傾向にある。

#### <総括>

前年度に引き続き、教員の学生支援活動が多岐にわたっていることが見て取れた。修学支援（特にチューターとしての業務）、就職支援（特に採用試験対策）、オフィスアワーの実施、研修の引率など、様々なかたちできめ細かい学生支援が行なわれていることが窺える。

### [4] 研究指導

#### <概要>

表5に、担当教員数及び教員一人当たりの学部主査・副査、大学院主査・副査の平均担当件数とその年度推移を集計した。

表5

令和4年度、研究指導の状況を示す項目は下記の五つである。

- ①学部主査件数
- ②学部副査件数
- ③大学院主査件数
- ④大学院副査件数
- ⑤研究成果発表の指導件数

#### ①～④学部主査・副査、大学院主査・副査件数について

教員1人当たり2人程度の学生に対して学部主査を担当している。また、副査も2人程度であり、両者を合わせると教員一人当たりおよそ4人程度の研究指導を受け持っている計算になる。

大学院（教育学研究科）については、学校教育学研究科の教員（計11名）が、大学院主査を3名程度、副査を3名程度、計6人程度を受け持っている計算となる。

⑤研究成果発表の指導件数について

前年度と同様、大学院での研究活動の成果を紀要に投稿したこと、または発表会で報告したことに関する記載が多かった。

<特記事項>

なし

<総括>

多くの教員が卒業論文の指導に力を注いでいる状況を読み取ることができた。

教育学部においては、教員免許を付与するための課程認定を受審する必要がある。そのため、カリキュラムあるいは教員配置は課程認定に適合させる必要がある。現在の教員数は、課程認定上の必置数を最小限確保できている状態である。年度によっては欠員が生じており、こうした状態が続くことは好ましくないという指摘もある。各年度末に定年退職となる教員の後任補充等を推し進めていく必要がある。

## （２）研究の領域

### <概要>

表6に、学術・研究実績のグループ別集計結果を示した。

表6

専門書等の出版について単著1編、共著8編と昨年度より減少している。学術雑誌 審査制・依頼論文は31編、無審査制は61編と無審査制については昨年度と同程度であるが、審査制・依頼論文は昨年度より減少している。審査制・依頼論文の数は幼小の数が、無審査制については教職大学院が顕著に多い。論文内容に照らし合わせ、適した雑誌等に投稿されていると考えられる。また、無審査制は大学の紀要が多く、学生が論文を発表する良い機会になっているかもしれない。学会出席は133回と昨年度の118回と比較して増加しているが、研究発表は55回と昨年度より若干減少している。新型コロナウイルス行動規制がなくなり、デスクワークよりも外部活動を重視した結果なのかもしれない。

外部資金(科学研究費を含む)については、研究責任者としての採択数は20件であり、昨年度21件と同様であった。一方、不採択件数は例年、横ばいで推移している。共同研究者としての採択数は21件と昨年度より10件と大幅に減少した。共同研究を昨年再スタートできたグループが多く、新規には至らなかったのかもしれない。

国外共同研究件は5件で、昨年度14件よりも大きく減少し、一昨年レベルに戻った。一方、国内共同研究は43件で昨年度より11件増加しており、一昨年度のレベル同様高水準であった。

なお、専門書の出版、論文数、作品数については、別に毎年、「成果を中心とした実績状況に基づく配分」に用いる教員の研究業績データ」による調査も行われており、より具体的な情報（論文名、雑誌名、著者名など）を参照することができる。

### <著書・論文・学術活動の例>

#### 1) 専門書等の出版（共編著）

- ・知的障害の心理・生理・病理—エビデンスに基づく特別支援教育のために「第2版」（北大路書房）
- ・ここからはじまる国語教室（ひつじ書房）
- ・小中学校家庭科の授業をつくる 5年間を見通すための理論・実践・基礎知識（学術図書出版）
- ・現場で役立つ教育相談入門（北樹出版）

#### 2) 論文（審査制・依頼論文）

- ・知的障害のある高校生に対するカウンセリング—特別支援学校におけるスクールカウンセリン

- グ実践事例を通して-, 九州生活福祉支援研究会研究論文集, 17, 2, pp. 23-39
- ・ 知的障害特別支援学校の教員における児童生徒への自立活動の指導に対する認識, 九州生活福祉支援研究会研究論文集, 17, 2, pp. 40-49
  - ・ 知的障害を伴う自閉スペクトラム症における好きなキャラクターの表情に対する視線パタンの分析, 九州生活福祉支援研究会研究論文集, 17, 2, pp. 60-68
  - ・ Posterior cingulate cortex spontaneous activity associated with motor response inhibition in patients with obsessive-compulsive disorder: A resting-state fMRI study., Psychiatry Research - Neuroimaging, 334, Article 111669
  - ・ Decision-making deficits in obsessive-compulsive disorder are associated with abnormality of recency and response consistency parameter in prospect valence learning model, Frontiers in Psychiatry, 29, 14, Article 1227057
  - ・ Gyrification of the medial and lateral orbitofrontal cortex in first-degree relatives of patients with obsessive-compulsive disorder, Cerebral Cortex, 33, 14, pp. 8913-8920
  - ・ Automated speech scoring of dialogue response by Japanese learners of English as a foreign language, Innovation in Language Learning and Teaching, 18, 1, pp. 32-46
  - ・ Reinforcement learning of bipedal walking using a simple reference motion, Applied Sciences, 14, 5
  - ・ Using particle representation of beliefs in an AlphaZero-based reinforcement learning algorithm for partially observable environments, ICIC Express Letters, 18, 3, pp. 219-227
  - ・ Search method for combinatorial optimization problem based on genetic algorithm representing solution candidate as combination of individuals, Proceedings of the 17th International Conference on Innovative Computing, Information and Control, p. 70
  - ・ Local safety map for a cornerstone of local disaster prevention: A case study of a historical local town in Japan, Proceedings of the 31st International Conference on Computers in Education, 2, pp. 265-270
  - ・ AlphaZero-based reinforcement learning for selecting procedural rules in ACT-R, Proceedings of the 29th International Symposium on Artificial Life and Robotics, pp. 236-239
  - ・ Evaluation of Physical Activity Assessment Using a Triaxial Activity Monitor in Community-Dwelling Older Japanese Adults With and Without Lifestyle-Related Diseases , Journal for the Measurement of Physical Behaviour , 6, 4, pp. 264-270
  - ・ 秋季の九州地区高等学校野球佐賀大会の私立の成績は公立より優れているのか?, 九州地区国立大学教育系・文系研究論文集, 10, 1, No. 4, pp. 1-15
  - ・ 産褥入院中の授乳服のデザインに関する研究-助産師による乳房ケアのしやすさの視点-, 日本助産学会誌, 2, 37, pp. 185-193
  - ・ Harmony between Tooth and Skin Colors-Based on the Impressions Male Model Faces among Young Males-, Reprinted Japanese Journal of Dental Esthetics, 36, 1, pp. 19-31

- ・ドライバーの視点による夜間時の傘の視認性評価—傘の色と反射テープ位置の違いに着目して—, 人間と生活環境, 30, 2, pp.83-90
- ・学校での怒りの多次元尺度短縮版の小学校中学年への適用—中学年と高学年の比較から—, 感情心理学研究, 31, 1, pp.1-7
- ・時間管理に対する生徒の認知が時間管理使用に及ぼす影響 時間学研究, 時間学研究, 14, pp.37-42

### 3) 学術活動

- ・ミューザ川崎市民交響楽祭 2023 演奏会 (2023 年 8 月 27 日)
- ・アンサンブル・マイルストーン演奏会 (2023 年 10 月 22 日)
- ・山梨大学管弦楽団演奏会 (2023 年 12 月 10 日)
- ・城ヶ島の雨 (梁田貞作曲) (2023 年 10 月)
- ・Zebinger:Liro の誕生日ケーキ (2023 年 12 月)
- ・Zebinger:Vier Volkslieder (2024 年 2 月)

#### <特記事項>

特になし

#### <総括>

教育学部教員の研究は多岐の分野に渡っており、それぞれの専門性を活かしながら研究・学術活動を行なっている。コロナ感染症の行動制限が緩和されたことにより、研究活動が活発になっており、学内だけでなく他大学や海外との共同研究にも取り組んでいる。

全学的には、研究については論文数や外部資金の獲得などを含め、研究のより活性化が求められており、教育や組織運営や他の業務とのバランスを取る必要がある。

### （３）国際・社会貢献の領域

#### [1] 国際貢献

<概要>

表7に、国際貢献の実績（教員グループ別）を示した。

表7

活動（報告）項目は、

①国際交流件数（運営・参加）

学内外で行われる国際学術交流事業・国際共同事業への貢献

②国際学会件数（運営・参加）

国際学会、国際会議、国際シンポジウム、国際交流会などへの貢献

③交流協定件数

外国の諸地域・諸機関などの文化交流・交流協定への尽力

④国際協力件数

JICA、JETRO等の制度組織の利用を含めた海外支援・国際協力を実施

⑤共同研究（研究者受入）件数

外国人研究者の受け入れ、留学生の派遣

⑥外国語版HPの件数

グループや個人のホームページの開設

の6つである。

教育学部は学校教育課程という一つの課程であり、教員志望学生が多数を占める。在学生の実績数としては高くないが、海外で勉学等経験を積もうという学生は一定数おり、留学している。教員側にも、海外の教育事情に目を向け、我が国の教育に活かす研究や活動を活発にするための研修機会が望まれる。

#### （1）国際交流件数（運営・参加）

近年、新型コロナウイルス感染症の影響により国際交流の件数は減少しており、昨年度に引き続き今年度も0件であった。

## (2) 国際学会（運営・参加）

新型コロナウイルス感染症の影響により、近年は大きく減少していたが、今年度は昨年度以上に運営3件、参加13件と増加し、いっそう国際的な交流が盛んになり以前のレベルに戻りつつある。一方、オンライン開催によるものも依然としてあるため、より参加しやすくなっている面もあるかもしれない。

### <国際学会運営の例>

- ・ITC 福岡（2023. 11. 25-30）（実施計画，案内，会場係）

### <国際学会参加の例>

- ・ICTMA21
- ・日本カナダ学会
- ・the 44th annual conference of the International School Psychology Association (ISPA)
- ・the 9th International Congress of Clinical and Health Psychology on Children and Adolescents
- ・IPPA world congress
- ・独日シンポジウム
- ・新宗教研究センター年次大会
- ・ヨーロッパ民族宗教学会
- ・国際18世紀学会
- ・17th Int. Conf. on Innov. Comp., Inf. Control <ICICIC2023>
- ・ICDG2023
- ・欧州健康心理学会

## (3) (4) 交流協定・国際協力

今年度は交流協定が1件、国際協力は0件であった。

### <交流協定・国際協力の例>

- ・リトアニアの協定校を訪問し、学部長・副学部長と面談
- ・リトアニアの協定校からの訪問教員と面談

## (5) 研究者受け入れ（共同研究）等

今年度は研究者受け入れが2件あった。

- ・静岡大学男女共同参画推進室「女性器切除をめぐる多角的研究」
- ・順天堂大学「卓球動作の研究」

<特記事項>

特になし

<総括>

今年度は昨年度と同程度であった。感染症の行動制限が緩和されたので、今後さらなる国際的な研究や協力がさらに新型コロナウイルス感染症以前のレベルに戻ることが期待される。国際共同研究は全学的にも推進が求められているので、教育学部においても組織的な共同研究が実施できればと考える。

## [2] 地域貢献

### <概要>

表8に、地域・社会貢献の実績（教員グループ別）を示した。

表8

活動（報告）項目は、

- (1) 審議委員件数  
国や地方自治体など行政組織の審議会・委員会での活動
- (2) 組織協力件数  
市町村行政、教育委員会、民間企業など地域諸組織との連携協力
- (3) 講習会等件数  
地域の各種講習会（シンポジウム、資格関連セミナー、講習会、研修会）の講師・運営
- (4) マスコミ件数  
マスコミ・メディアとの連携交流（学識者としての出演・寄稿・助言など）
- (5) 技術移転件数  
地域産業や地域社会への技術・学知の移転を進めて振興支援に協力
- (6) 社会参加（組織運営・個人参加）件数  
地域でのボランティア活動、社会福祉組織運営への協力など社会参加
- (7) 公開講座件数  
本大学・本学部が行う市民公開講座や社会人再教育などの実施や講師
- (8) 附属施設との共同研究件数  
附属学校園等附属施設との共同研究（授業研究、教材開発など）や教員の相互交流
- (9) 附属施設での指導・助言件数  
附属学校園等附属施設で行われる校内研修会や研究発表会などにおける指導助言

の9つである。

地域貢献の分野の活動における項目について多少の増減はあるものの、近年ほぼ横ばいである。近年、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した講習会や指導助言については、新型コロナウイルス感染症以前の件数に戻っているように見える。

### (1) 審議委員件数について

毎月の教授会及び教員会議において、兼業について確認されている。多くの教員が佐賀県及び佐賀県内の市町村の審議会委員・審査員として、専門性を活かして地域貢献を行っている。

<審議会委員・審査員の例>

- ・佐賀県環境審議会委員
- ・佐賀県スポーツ賞審議委員会
- ・佐賀県教科用図書選定審議会
- ・佐賀県後期高齢者医療広域連合情報審査員
- ・佐賀県社会福祉審議会委員
- ・佐賀市都市計画審議会委員
- ・佐賀市環境審議会
- ・佐賀市スポーツ審議委員
- ・佐賀市男女共同参画審議会委員
- ・佐賀地方労働審議会
- ・小城市男女共同参画審議会委員
- ・鳥栖市環境審議会
- ・唐津港地方港湾審議会
- ・多久市情報審査員
- ・多久市環境審議会
- ・九州地方ダム等管理フォローアップ委員会

(2) 組織協力について

今年度は40件と昨年度より大幅に減少している。その中で教職大学院は30件と75%を占めており、佐賀県との連携・協力協議会に関連する取り組みが多く見られた。一方、言語・社会系、理数系、実技系は大きく減少しており、社会の変化が影響しているのか今後の注視が必要である。また、個人評価様式において「(1) 審議委員」と「(2) 組織協力」の記入欄が分かれていないために年度ごとの集計者によるブレが出ている可能性があり、今後の課題である。

<組織協力の例>（教授会資料（兼業）に記載されているものを除く）

●学部

- ・佐賀大学教育学部、佐賀大学大学院学校教育学研究科及び佐賀県教育委員会との連携・協力協議会
- ・大阪府摂津市立味生小学校学力向上スーパーバイザー
- ・京都府京都市立竹の里小学校学力向上スーパーバイザー
- ・長崎県西海市学力向上スーパーバイザー
- ・佐賀市立小中一貫校芙蓉校学校評議員
- ・赤松小学校運営協議会委員
- ・鳥栖市日本語教育検討委員会
- ・ICT活用教育の推進に関する事業改善検討委員会
- ・NPO 法人ころころねっと浜松理事
- ・嬉野市健康増進課

- ・ 鹿島市健康福祉課
- ・ 九州佐賀空港 PI 評価委員会委員
- ・ 九州大学サッカー連盟理事
- ・ 教育センター運営協議会
- ・ 京都賞の推薦委員
- ・ 煌めくながさき音楽コンクール
- ・ 佐賀県廃棄物処理施設専門委員会
- ・ 佐賀県障害のある子どもの学校生活支援事業
- ・ 佐賀県教員研修計画検討委員会
- ・ 佐賀県造形教育研究会
- ・ 佐賀県聴覚障害者サポートセンター運営委員会
- ・ 佐賀県幼児教育・保育の質の向上検討委員会委員
- ・ 佐賀県療育支援センター研修検討会
- ・ 佐賀県ロコモ対策委員会
- ・ 佐賀市教育支援委員会
- ・ 佐賀県 SSH 運営指導委員
- ・ 佐賀県高等学校文化連盟書道専門部
- ・ 佐賀県障がい者の芸術活動支援事業
- ・ 佐賀県書道教育連盟
- ・ 佐賀市指定管理者選定委員会
- ・ 佐賀市就学支援委員会
- ・ 佐賀市民芸術祭実行委員会
- ・ 佐賀新聞社”チャレンジ3 days”審査員
- ・ 佐賀保護司選考委員会委員
- ・ 障害児支援に係る専門家と巡回相談員の合同会議
- ・ 食育ネットワーク佐賀幹事会
- ・ 新時代に対応した高等学校改革推進事業
- ・ 多久市就学指導委員会
- ・ 鳥栖市健康福祉課
- ・ 佐賀県人権教育・啓発推進懇話会委員
- ・ 佐賀県体育協会・医科学委員
- ・ 佐賀県内地域防災研究連絡会議
- ・ 佐賀県保育幼児教育センター事業委員会 委員
- ・ 佐賀市民芸術祭フレッシュアーティスト
- ・ 静岡市子どもクリエイティブタウン運営協議会委員
- ・ 鳥栖市男女共同参画懇話会
- ・ 日本学術振興会に関する委員

●学校教育学研究科

- ・佐賀大学教育学部、佐賀大学大学院学校教育学研究科及び佐賀県教育委員会との連携・協力協議会
- ・SAGA2024 実行委員会式典専門委員会
- ・唐津市社会教育委員会
- ・からつ市レクリエーション協会
- ・九州数学教育研究会
- ・佐賀県教育センタープロジェクト研究（算数）
- ・佐賀県小中校等学校算数・数学教育部会
- ・佐賀県フライングディスク協会
- ・佐賀県立彩志学舎中学校教科用図書検討委員会
- ・佐賀県レクリエーション協会
- ・佐賀県学力向上対策検討改善委員会
- ・佐賀西高等学校学校評議委員
- ・第42回佐賀県自殺対策協議会
- ・武雄市教育委員会評価委員
- ・鳥栖市総合型地域スポーツクラブ「フィッ鳥栖」
- ・令和5年度 佐賀県発達障害者支援連絡協議会
- ・株式会社富士通総研 行政経営グループ
- ・佐賀県学力向上対策検証・改善委員会
- ・佐賀県教育庁学校教育課生徒支援室
- ・佐賀県教員研修検討委員会委員
- ・佐賀県公私立高等学校連絡協議会（副委員長）
- ・佐賀市教育委員会評価委員
- ・令和5年度ギャンブル等依存症対策連携会議

(3) 講習会等件数について

今年度は88件と昨年度の110件よりも減少している。大学や学部として組織的に行なっている講習と教員個人が取り組んでいる講習がある。組織的な取り組みとしては「佐賀大学教育学部、佐賀大学大学院学校教育学研究科及び佐賀県教育委員会との連携・協力事業」に関する取組に、多くの教員が講師等として関わっている。教育学部・学校教育学研究科であるため、講習対象は高校生や教員が多く見られる。中には市民対象のものもあり、各自の専門性が地域や社会に還元されていることが窺える。

<組織的に取り組んでいる講習の例>

- ・佐賀県教育委員会・教育センター主催の講座・講習・研修  
（佐賀県教育委員会免許法認定講習、佐賀県中堅教諭等資質向上研修、学校トップリーダー研修会、佐賀県特別支援教育アドバイザー養成研修、初任者研修、新任主幹教諭及び新任指導教

論研修、他)

- ・教師へのとびら
- ・ジョイントセミナー
- ・佐賀県ゆめ佐賀大学
- ・佐賀大学公開講座・授業開放

<教員の専門分野を活かした講習の例>

●学部

- ・2023年度 山梨県看護教育研究協議会研修会
- ・S.E.N.S 佐賀支部会継続研修会
- ・あけぼの保育園 研修会講師
- ・伊豆の国市 子育て支援事業 講習会
- ・インタラクショナル・ビュウ研究会
- ・運行管理者講習
- ・厳木高等学校特別支援教育研修会
- ・熊本市算数教育研究会（北ブロック）研修会
- ・佐賀アカデミー室内合奏団
- ・佐賀県病弱教育ネットワーク
- ・佐賀県小中高大の英語教育の連携を図る研究会
- ・佐賀指揮研究会
- ・佐賀市生活指導員研修会
- ・佐賀大学健康教室
- ・算数授業を子どもと創る研究会
- ・中・高新任理科教諭研修、理科教諭講習
- ・富山県看護教育機関連絡協議会研修会
- ・中原特別支援学校校内研修会
- ・夏休み学童保育 WITH カッチー教室「だしってなあに？」
- ・日本ブリーフセラピー協会 短期療法を学ぶ会福岡、ブリーフコーチ養成講座ベーシック
- ・福岡県専任教員養成講習会
- ・夢の種まきプロジェクト
- ・令和5年度放送大学佐賀スクーリング
- ・令和5年度佐賀県障害者スポーツ初級養成講習会
- ・伊万里市男女協働参画推進会議・幹事会研修会
- ・英語ディベート研修会
- ・衛生管理者受験準備講習
- ・令和5年度社会人権・同和教育指導者要請講座
- ・佐賀県特別支援学校特別支援教育コーディネーター会
- ・佐賀県立男女共同参画センター「アバンセ」男女共同参画お届け講座

- ・小城市男女共同参画ネットワーク学習会講師
- ・到遠館中学校・高等学校人権講演会
- ・令和5年度佐賀県県民企画支援事業 県民カレッジ夢パレット佐賀講師

●学校教育学研究科

- ・「新たな教師の学び」に対応したオンライン研修コンテンツ開発事業
- ・大町学園校内研究講話
- ・カウンセリング実践講座
- ・佐城地区情緒障害教室夏季研修会
- ・教育相談教職員研修
- ・算数・数学サロン
- ・初等理科教育研究会
- ・養護教諭研修会
- ・九州地区 障害者支援に関する大学間連携情報交換会
- ・令和5年度小・中学校新任主幹教諭及び新任指導教諭研修

(4) マスコミ件数

下記の記載が見られたが、令和5年度は4年度に比べて記載件数は2件増えている。  
コロナ禍の影響もなくなり、少しずつではあるがコロナ前に戻ってきているといえる。

●学部

- ・家族の絵コンクール（審査講評と、選出した優秀作品、展覧会開催の記事が佐賀新聞に掲載された。）
- ・佐賀新聞（佐賀新聞の「地域の話題」で、佐賀大学の書道同好会の学生活動や書作展の概要について説明を行った。掲載：2024/3/2）
- ・NHK佐賀（NHK佐賀「月刊\_発見佐賀！食べごろギュッとくん／10月号：“九州男児”って時代おくれ！？」コメンテーター）
- ・RKB（RKB毎日放送：夕方ニュース「オスプレイ墜落事故：『無関係な人は誰もいない』／陸上自衛隊は飛行訓練を中止／佐賀で進むオスプレイ配備に影響は」コメント）
- ・NHK佐賀（NHK佐賀「ニュースただいま佐賀」（佐賀県でも広がる「学校制服選択制」その意義と課題）インタビュー）
- ・西日本新聞（第7回 きゅうでん「はがき新聞コンクール」総評および受賞作品の講評）
- ・NHK 全国（おはよう日本 「思考力を育成する新しい国語科授業の開発」）
- ・週間読書人（『祖国と歌ーW.B. イェイツ』の書評）
- ・週間読書人（木原著『イェイツ・コード』の書評が掲載）
- ・佐賀新聞（「さがプログラミングアワード2023 本選@メートプラザ佐賀<12/02>」において、審査員を代表して講評を述べたことが、詳報記事の中に掲載された。）

●学校教育学研究科

- ・Business Insider Japan（「タイパ時代に考えたい、現代人の幸福感」という記事の中で、時間の使い方と幸福感に関する話をした。）
- ・西日本新聞（西日本新聞のいじめキャンペーン報道に関する取材依頼を受け対応した）
- ・佐賀新聞（八賢人（大木喬任）を演じていることと、八賢人の偉業や功績を10年伝え続けていることへの感想や雑感）
- ・STSサガテレビ（サガテレビ「ミランバくん体操」の振り付けを行い、解説映像にモデルおよび解説のため出演した。）
- ・RKB テレビ（同局のニュース番組で報道される「ペーパーティーチャー」についてコメントを求められ、対面取材で対応。）
- ・大分朝日放送（同局のニュース番組で報道される「ペーパーティーチャー」についてコメントを求められ、電話取材で対応。）
- ・佐賀新聞（佐賀新聞の記事に研究成果発表会のシンポジウムの内容が掲載された）

#### (5) 技術移転件数

複数の記載があったが、「技術」の定義が不明なため、記載すべきか判断できなかった。たとえば、「方法論」を記載すべきかどうか。

#### (6) 社会参加（組織運営・個人参加）件数

教員は、社会の多くの組織活動に関与している。下記の記載が見られた。

##### ●学部

- ・知的ギフトド親の会学習会
- ・NPO 法人 夢気球
- ・NPO 法人 ぶりずむ
- ・佐賀の保育を考える会
- ・Mryiya Report
- ・ENGin Program
- ・老人ホーム訪問団
- ・NPO 佐賀
- ・高齢者の方への書道の指導
- ・第75回全日本中学校英語弁論大会佐賀県大会審査員
- ・NPO 法人温暖化防止ネット
- ・佐賀自然史研究会
- ・CoderDojo さが
- ・電子工作教室@佐賀市星空学習館
- ・佐賀県高校総合文化祭／自然科学研究発表会
- ・創造アイデアロボットコンテスト／佐賀県中学生大会
- ・学校支援教育ボランティア
- ・NPO 法人スポーツフォアオール

- ・佐賀大学ベースボールクラブ
- ・ユニキッズ バレーボール
- ・ユニキッズ 柔道

●学校教育学研究科

- ・少年の居場所づくり活動
- ・子どもシェルター「ばるーん」
- ・NPO九州大学こころとそだちの相談室
- ・メディア教育研究会
- ・佐賀市少年少女発明クラブ
- ・佐賀大探究おたすけたい
- ・中国四国障害者芸術支援センター
- ・一社魅力発掘プロデュース協会
- ・からつ市レクリエーション協会

(7) 公開講座件数

下記の記載が見られた。

- ・「障害児の保護者との関係づくり」 佐賀県寄宿舍指導員等研修講師（オンライン研修）
- ・「不対応のある児童生徒への接し方」 佐賀県伊万里・有田小中研究会研修講師
- ・佐賀大学高大連携プロジェクト「教師へのとびら」
- ・佐賀県立ろう学校主催公開講座
- ・附属幼稚園公開保育 講演（講演タイトル「保育環境は幼児理解から始まる」）
- ・佐賀県中堅教員等資質向上研修「高大接続教育について」
- ・学校トップリーダー研修会セッションⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ（研修会の運営、企画、関係機関との連絡調整）
- ・英語ディベートの指導と実践
- ・佐賀大学授業開放（後学期の「書道Ⅳ」）
- ・佐賀大学と武雄市との地域連携公開講座（男らしく、女らしくの過去から“自分らしく”の未来へ）
- ・佐賀大学と武雄市との地域連携公開講座（くらしに役立つ消費生活講座）
- ・佐賀に見る〇〇学
- ・夢の種まきプロジェクト-大学の授業を受けてみよう
- ・ジョイントセミナー筑紫台高校

(8,9) 附属施設との共同研究件数、附属施設での指導・助言件数

佐賀大学教育学部附属学校（附属小学校、附属中学校）、代用附属学校（城西中学校、本庄小学校、西与賀小学校）において、授業検討会、研究発表会、要項審議、公開授業、全体研究会などが行われた。

本項目の詳細については、毎年度作成される「附属学校園等 共同研究報告」に収集されている。各項目ごと、件数は異なるものの、幅広く連携・協働が行われていることがわかる。

活動の記載がある項目：

- ・ 著書、学術論文、授業実践事例研究論文、学会等発表
- ・ 講演
- ・ 卒業論文の協力
- ・ 授業実践（学部教員による附属園児、児童生徒への授業）
- ・ 附属学校教員と学部教員の共同（分科会指導助言）による公開研究授業（校内授業研究会、研究発表会等）
- ・ 附属学校教員による学部学生への授業（教科教育法、教育実習事前・事後指導、教員養成実地指導等を含む）
- ・ 附属学校教員による大学院学生への授業（実践授業研究、他等を含む）
- ・ 附属学校教員の研究発表会による公開授業及び分科会への学部学生の参加
- ・ 学部・附属間連携交流（学部附属交流教育（学生と児童生徒交流、部活動を含む））
- ・ 附属間連携教育（児童生徒の連携教育を含む）
- ・ 要項審議に関わる研究会（指導案検討を含む）
- ・ 学部・附属の教員による連携研究会（定期的な勉強会）、その他、研修会など

#### (10) その他

○教員の専門領域に応じて、下記に示す多様な活動が行われていた。

##### [1] 学校関係

- ・ 算数・数学サロン
- ・ 算数・数学授業改善ワークショップ
- ・ 教師力・学校力向上に関する実践研究
- ・ 佐賀県立金立特別支援学校学校評議員
- ・ 佐賀公立松梅校での教師支援
- ・ 英語ディベートワークショップ
- ・ 九州算数・数学教育研究熊本大会
- ・ 佐賀県「外部人材を活用した小学校に於ける科学教室」
- ・ サッカースクール及びスポーツ活動へのコーチ派遣

##### [2] 公的機関関係

- ・ 佐賀県障害者差別解消支援地域協議会
- ・ 佐賀県吹奏楽連盟
- ・ 嬉野市史編集委員会
- ・ 日本クラシック音楽コンクール予選審査
- ・ 日本クラシック音楽コンクール本選審査

##### [3] その他

- ・ 社会福祉法人はる

- ・日台言語文化交流会
- ・日本国際文学会の副会長として学会運営に従事
- ・日本イェイツ協会役員に従事
- ・さがプログラミングアワード2023
- ・学術雑誌 Sasutainability などの査読を計18回担当
- ・体力科学の編集業務2回
- ・オープンキャンパス

<特記事項>

地元、佐賀県、佐賀市をはじめいくつかの自治体、佐賀大学と佐賀県との連携・協力協議会の活動として多くの地元と連携した活動が実施されている。

<総括>

令和5年度は、コロナ禍もあけ、本学部特有の教育及び研究の多様性に基づいた、さまざまな活動が実施されていた。

最近では、大学と社会や地域との関係について議論が高まっており、教員が地域社会の活動に積極的に関わろうとする意識を持ち始めている。

教員がそれぞれの専門領域を背景として積極的に社会あるいは地域において活動していくことが、社会への貢献であるとともに、教員組織の共同体的意識の醸成にも役立つ。附属学校園と大学教員の研究協力体制のもと、地域貢献に資する一層の具体的な取り組みを行う必要がある。

教育学部・学校教育学研究科の教育及び研究領域の多様性こそ、本学部の教育成果を飛躍的に伸ばす鍵と考え、統一性のある努力を積み重ねていきたい。

#### （4）組織・運営の領域

##### ＜概要＞

表9に、組織運営活動の実績（グループ・実践センター別）を示した。

表9

##### ＜特記事項＞

特になし

##### ＜総括＞

令和5年度は教育学部・学校教育学研究科の連携を図り、業務の効率化を進めていく体制が整いつつある。

### 3 全体総括

令和5年度も教育学部及び学校教育学研究科では、非常に幅広い領域での多様な教育・研究活動が行われていた。一昨年度まで教育・研究に大きな影響を与えていた新型コロナウイルス感染症の影響が弱まり、対面での授業・学会・講習・協議会などが回復していると同時にコロナ下で養われたオンラインの長所を活かした取り組みも継続されている。また、ここ数年、退職教員の後任不補充が緩和されたことから、少数ではあるが毎年新任教員が着任しており、教育・研究が活発化している様子も見られる。一方で組織運営等の業務の多忙さは相変わらずであり、教育・研究がさらに発展するためには思い切った業務の効率化が必要と思われる。

### 4 図表（別紙）

表1. 個人評価実施状況（教員グループ別）

| グループ等           | 対象教員数※ | 提出者数 | 提出率  |
|-----------------|--------|------|------|
| 幼小連携グループ・実践センター | 10     | 10   | 100% |
| 言語・社会系グループ      | 12     | 12   | 100% |
| 理数系グループ         | 9      | 8    | 89%  |
| 実技系グループ         | 11     | 11   | 100% |
| 学校教育学研究科        | 10     | 10   | 100% |
| 合 計             | 52     | 51   | 98%  |

表2. 担当授業時間（教員グループ別）

| グループ    | 幼小・実セ |   |       |   |       | 言語・社会系 |       |   |       |   | 理数系   |   |       |   |       |   |       |   |       |   |       |   |       |   |       |   |       |   |       |   |
|---------|-------|---|-------|---|-------|--------|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|
| 教員数     | 10    | ( | 9     | , | 10    | ,      | 10    | , | 12    | ) | 12    | ( | 12    | , | 12    | , | 12    | , | 14    | ) | 8     | ( | 8     | , | 8     | , | 12    | , | 12    | ) |
| 教養担当時間  | 94    | ( | 108   | , | 126   | ,      | 15    | , | 153   | ) | 302   | ( | 284   | , | 310   | , | 180   | , | 448   | ) | 250   | ( | 272   | , | 272   | , | 270   | , | 270   | ) |
| 学部担当時間  | 2,670 | ( | 2,451 | , | 2,692 | ,      | 2,423 | , | 2,526 | ) | 2,772 | ( | 2,398 | , | 2,667 | , | 1,953 | , | 2,842 | ) | 1,767 | ( | 1,581 | , | 1,775 | , | 1,700 | , | 1,784 | ) |
| 大学院担当時間 | 244   | ( | 214   | , | 300   | ,      | 90    | , | 80    | ) | 210   | ( | 242   | , | 242   | , | 184   | , | 185   | ) | 90    | ( | 30    | , | 60    | , | 60    | , | 90    | ) |
| グループ合計  | 3,008 | ( | 2,773 | , | 3,118 | ,      | 2,528 | , | 2,759 | ) | 3,284 | ( | 2,924 | , | 3,219 | , | 2,317 | , | 3,475 | ) | 2,107 | ( | 1,883 | , | 2,107 | , | 2,030 | , | 2,144 | ) |

| グループ    | 実技系   |   |       |   |       | 教職大学院 |       |   |       |   | 学部・教職大学院計 |   |       |   |       |   |       |   |       |   |        |   |        |   |        |   |        |   |        |   |
|---------|-------|---|-------|---|-------|-------|-------|---|-------|---|-----------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|
| 教員数     | 11    | ( | 10    | , | 11    | ,     | 13    | , | 14    | ) | 10        | ( | 11    | , | 11    | , | 14    | , | 14    | ) | 51     | ( | 50     | , | 52     | , | 61     | , | 66     | ) |
| 教養担当時間  | 704   | ( | 644   | , | 344   | ,     | 494   | , | 556   | ) | 40        | ( | 40    | , | 36    | , | 32    | , | 32    | ) | 1,390  | ( | 1,348  | , | 1,088  | , | 991    | , | 1,459  | ) |
| 学部担当時間  | 3,535 | ( | 3,374 | , | 3,801 | ,     | 4,075 | , | 4,143 | ) | 647       | ( | 792   | , | 764   | , | 788   | , | 675   | ) | 11,391 | ( | 10,596 | , | 11,699 | , | 10,939 | , | 11,970 | ) |
| 大学院担当時間 | 497   | ( | 690   | , | 600   | ,     | 276   | , | 182   | ) | 3,740     | ( | 3,854 | , | 3,565 | , | 4,781 | , | 3,862 | ) | 4,781  | ( | 5,030  | , | 4,767  | , | 5,391  | , | 4,399  | ) |
| グループ合計  | 4,736 | ( | 4,708 | , | 4,745 | ,     | 4,845 | , | 4,881 | ) | 4,427     | ( | 4,686 | , | 4,365 | , | 5,601 | , | 4,569 | ) | 17,562 | ( | 16,974 | , | 17,554 | , | 17,321 | , | 17,828 | ) |

括弧内は過去 4 年の数値（令和4年度～令和元年度）

表3. 教育改善の実績数

|                                   |    |                            |
|-----------------------------------|----|----------------------------|
| 授業評価を参考に授業内容・方法の改善                | 45 | ( 47 , 61 , 29 , 56 , 55 ) |
| 授業のための教材等の作成                      | 40 | ( 40 , 54 , 27 , 51 , 47 ) |
| 教育内容等に関する研究活動                     | 36 | ( 31 , 49 , 23 , 39 , 39 ) |
| TA・RAの採用                          | 8  | ( 6 , 6 , 1 , 6 , 9 )      |
| HPを通じた全ての担当科目のシラバス公開              | 46 | ( 47 , 58 , 29 , 50 , 55 ) |
| HPを通じた全ての担当科目の成績評価の 方法・<br>基準等の作成 | 49 | ( 49 , 62 , 29 , 56 , 55 ) |
| 教育関係の研修への参加                       | 46 | ( 43 , 57 , 27 , 50 , 50 ) |
| リメディアル教育の実施                       | 16 | ( 18 , 17 , 11 , 19 , 22 ) |
| 公開授業の実施                           | 14 | ( 4 , 7 , 2 , 7 , 3 )      |
| その他の教育改善                          | 23 | ( 24 , 29 , 12 , 21 , 23 ) |

括弧内は過去 5 年の数値（令和4年度～平成30年度）

表4. 学生支援の実施数

|                       |    |                            |
|-----------------------|----|----------------------------|
| オフィスアワーの実施            | 48 | ( 48 , 51 , 28 , 55 , 54 ) |
| 研究生の指導                | 5  | ( 5 , 4 , 0 , 4 , 4 )      |
| 学生研修の引率               | 21 | ( 15 , 20 , 6 , 25 , 26 )  |
| 就職のための特別指導            | 43 | ( 38 , 41 , 25 , 48 , 49 ) |
| 学生の海外派遣               | 4  | ( 3 , 2 , 1 , 7 , 6 )      |
| 短期プロ等による留学生指導         | 9  | ( 5 , 2 , 3 , 12 , 9 )     |
| 学年担任, クラブ顧問           | 45 | ( 40 , 43 , 26 , 51 , 58 ) |
| 留学生・社会人・障害者の持続的な生活指導等 | 8  | ( 5 , 3 , 4 , 20 , 7 )     |
| その他の学生支援              | 30 | ( 28 , 27 , 16 , 33 , 33 ) |

括弧内は過去5年の数値（令和4年度～平成30年度）

表5. 教員一人当たりの学部主査・副査, 大学院主査・副査の担当件数

| 年度 | 卒業研究<br>指導可能教員数 | 大学院修了研究<br>指導可能教員数 | 学部<br>主査 | 学部<br>副査 | 大学院<br>主査 | 大学院<br>副査 | 研究成果<br>発表の指導 |
|----|-----------------|--------------------|----------|----------|-----------|-----------|---------------|
| 25 | 105             | 64                 | 2.4      | 1.7      | 0.4       | 0.7       | 0.6           |
| 26 | 98              | 61                 | 2.6      | 2.0      | 0.6       | 0.7       | 0.6           |
| 27 | 99              | 62                 | 2.6      | 1.7      | 0.7       | 1.1       | 0.6           |
| 28 | 66              | 55                 | 2.8      | 2.0      | 0.5       | 0.7       | 0.5           |
| 29 | 67              | 55                 | 2.7      | 2.0      | 0.5       | 0.6       | 0.7           |
| 30 | 61              | 55                 | 3.0      | 2.0      | 0.0       | 0.0       | 0.2           |
| 元  | 66              | 66                 | 2.4      | 2.1      | 0.8       | 1.0       | 0.7           |
| 2  | 61              | 55                 | 2.0      | 2.0      | 0.6       | 0.9       | 0.9           |
| 3  | 54              | 54                 | 2.3      | 2.1      | 0.5       | 0.7       | 0.9           |
| 4  | 50              | 50                 | 2.2      | 2.3      | 0.7       | 0.7       | 0.8           |
| 5  | 51              | 51                 | 2.3      | 2.3      | 0.6       | 0.4       | 1.5           |

表6. 学術・研究実績のグループ別集計

| 区分                               |                                       | 総数                                 | 幼小・実セ                         | 言語・社会系                        | 理数系                      | 実技系                           | 教職大学院                         |
|----------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 専門書等の出版<br>(編数)                  | 単著(編)                                 | 1 ( 0, 2, 1, 9, 2, 2 )             | 0 ( 0, 0, 0, 0, 0, 1 )        | 1 ( 0, 0, 0, 6, 1, 0 )        | 0 ( 0, 0, 0, 0, 0, 0 )   | 0 ( 0, 1, 0, 3, 0, 1 )        | 0 ( 0, 1, 1, 0, 1, 0 )        |
|                                  | 共著(編)                                 | 8 ( 19, 22, 16, 22, 21, 29 )       | 1 ( 3, 6, 5, 11, 5, 1 )       | 1 ( 5, 6, 6, 3, 8, 10 )       | 1 ( 4, 4, 0, 0, 1, 3 )   | 4 ( 1, 1, 0, 3, 3, 9 )        | 1 ( 6, 5, 5, 5, 4, 6 )        |
| 国内外学術活動<br>(件数)                  | 国際・全国規模<br>の芸術活動・演<br>奏活動・競技活<br>動(件) | 1 ( 0, 0, 80, 7, 3, 3 )            | 0 ( 0, 0, 0, 0, 0, 0 )        | 0 ( 0, 0, 0, 1, 0, 0 )        | 1 ( 0, 0, 0, 0, 0, 0 )   | 0 ( 0, 0, 80, 6, 2, 1 )       | 0 ( 0, 0, 0, 0, 1, 1 )        |
|                                  | その他の芸術活<br>動・演奏活動・<br>競技活動(件)         | 27 ( 12, 19, 9, 20, 23, 15 )       | 0 ( 0, 1, 0, 0, 1, 0 )        | 10 ( 0, 6, 1, 0, 0, 0 )       | 1 ( 3, 1, 0, 0, 0, 0 )   | 16 ( 9, 11, 8, 20, 22, 15 )   | 0 ( 0, 0, 0, 0, 0, 0 )        |
| 学術雑誌への記載<br>(編数)                 | 審査制・依頼論<br>文(編)                       | 31 ( 44, 32, 31, 31, 40, 33 )      | 19 ( 13, 7, 3, 8, 2, 5 )      | 1 ( 6, 4, 1, 6, 9, 7 )        | 0 ( 5, 6, 3, 4, 11, 7 )  | 6 ( 9, 6, 8, 3, 8, 5 )        | 5 ( 11, 9, 16, 10, 10, 9 )    |
|                                  | 無審査制(編)                               | 61 ( 58, 71, 74, 56, 36, 88 )      | 17 ( 15, 23, 28, 12, 11, 7 )  | 5 ( 12, 11, 8, 14, 6, 22 )    | 0 ( 0, 1, 4, 3, 1, 4 )   | 4 ( 0, 5, 11, 7, 1, 18 )      | 35 ( 31, 31, 23, 20, 17, 35 ) |
| 国内外学術講演<br>(回数)                  | 国外(回)                                 | 6 ( 7, 5, 2, 8, 1, 2 )             | 3 ( 4, 4, 0, 1, 0, 0 )        | 0 ( 0, 0, 0, 3, 0, 0 )        | 2 ( 0, 1, 2, 3, 0, 2 )   | 0 ( 0, 0, 0, 1, 0, 0 )        | 1 ( 3, 0, 0, 0, 1, 0 )        |
|                                  | 国内(回)                                 | 23 ( 19, 24, 26, 32, 47, 65 )      | 4 ( 5, 1, 2, 5, 1, 0 )        | 18 ( 13, 21, 18, 20, 20, 23 ) | 0 ( 0, 2, 4, 3, 0, 8 )   | 0 ( 1, 0, 1, 4, 5, 5 )        | 1 ( 0, 0, 1, 0, 21, 29 )      |
| 専門分野の学術活動(件数)                    |                                       | 11 ( 14, 26, 28, 33, 26, 31 )      | 3 ( 0, 3, 2, 6, 3, 5 )        | 3 ( 1, 6, 3, 17, 12, 4 )      | 4 ( 4, 1, 0, 0, 0, 0 )   | 0 ( 2, 5, 4, 8, 6, 16 )       | 1 ( 7, 11, 19, 2, 5, 6 )      |
| 学会賞等(件数)                         |                                       | 0 ( 1, 0, 1, 2, 0, 1 )             | 0 ( 1, 0, 1, 0, 0, 0 )        | 0 ( 0, 0, 0, 0, 0, 1 )        | 0 ( 0, 0, 0, 0, 0, 0 )   | 0 ( 0, 0, 0, 0, 0, 0 )        | 0 ( 0, 0, 0, 2, 0, 0 )        |
| 学会の開催(件数)                        |                                       | 18 ( 14, 2, 6, 14, 17, 28 )        | 4 ( 1, 0, 3, 0, 2, 5 )        | 2 ( 3, 0, 1, 10, 6, 9 )       | 4 ( 1, 1, 2, 3, 2, 3 )   | 6 ( 6, 1, 0, 1, 3, 2 )        | 2 ( 3, 0, 0, 0, 4, 9 )        |
| 学会発表等(件<br>数)                    | 研究発表(件)                               | 55 ( 61, 43, 48, 54, 46, 55 )      | 11 ( 16, 9, 9, 13, 7, 7 )     | 8 ( 7, 10, 3, 9, 10, 12 )     | 12 ( 10, 5, 6, 8, 2, 9 ) | 8 ( 2, 3, 6, 12, 9, 9 )       | 16 ( 26, 16, 24, 12, 18, 18 ) |
|                                  | 座長等(件)                                | 20 ( 17, 19, 7, 28, 23, 25 )       | 5 ( 1, 2, 0, 9, 7, 1 )        | 4 ( 5, 2, 1, 7, 4, 7 )        | 3 ( 1, 3, 2, 3, 1, 1 )   | 2 ( 0, 4, 1, 5, 3, 11 )       | 6 ( 10, 8, 3, 4, 8, 5 )       |
| 学会役員等(件数)                        |                                       | 79 ( 82, 83, 76, 64, 80, 70 )      | 14 ( 15, 21, 16, 11, 13, 10 ) | 28 ( 22, 23, 23, 20, 26, 24 ) | 10 ( 8, 7, 8, 8, 5, 7 )  | 12 ( 16, 13, 9, 13, 20, 15 )  | 15 ( 21, 19, 20, 12, 16, 14 ) |
| 学会出席(回数)                         |                                       | 133 ( 118, 134, 77, 90, 130, 129 ) | 20 ( 24, 30, 10, 25, 27, 12 ) | 42 ( 34, 41, 26, 22, 51, 49 ) | 20 ( 5, 6, 6, 7, 3, 11 ) | 26 ( 18, 19, 13, 18, 14, 26 ) | 25 ( 37, 38, 22, 18, 25, 31 ) |
| 外部資金<br>(科学研究費を含<br>む)<br>申請(件数) | 採択(研究責任<br>者)(件)                      | 20 ( 21, 16, 12, 26, 24, 23 )      | 3 ( 4, 2, 1, 2, 0, 0 )        | 7 ( 7, 5, 3, 13, 8, 11 )      | 4 ( 2, 1, 0, 2, 0, 3 )   | 5 ( 3, 2, 3, 9, 9, 4 )        | 1 ( 5, 6, 5, 7, 7, 5 )        |
|                                  | 採択(共同研究<br>者)(件)                      | 21 ( 31, 24, 19, 13, 17, 18 )      | 5 ( 6, 4, 2, 0, 1, 1 )        | 5 ( 5, 2, 2, 4, 2, 5 )        | 2 ( 1, 2, 1, 1, 2, 1 )   | 2 ( 3, 1, 1, 0, 3, 4 )        | 7 ( 16, 15, 13, 8, 9, 7 )     |
|                                  | 不採択(件)                                | 27 ( 26, 25, 22, 24, 19, 18 )      | 6 ( 5, 5, 3, 6, 6, 3 )        | 3 ( 3, 5, 1, 3, 5, 4 )        | 3 ( 6, 5, 5, 3, 3, 4 )   | 8 ( 8, 8, 9, 10, 4, 3 )       | 7 ( 4, 2, 4, 2, 3, 4 )        |
| 国内外共同研究<br>(件数)                  | 国外(件)                                 | 5 ( 14, 3, 2, 8, 4, 4 )            | 2 ( 0, 0, 1, 4, 0, 0 )        | 1 ( 1, 1, 1, 3, 3, 1 )        | 1 ( 1, 2, 0, 0, 1, 1 )   | 1 ( 0, 0, 0, 0, 0, 1 )        | 0 ( 12, 0, 0, 0, 1, 0 )       |
|                                  | 国内(件)                                 | 43 ( 32, 41, 30, 38, 21, 31 )      | 9 ( 12, 8, 3, 6, 6, 1 )       | 3 ( 3, 3, 8, 7, 10, 3 )       | 2 ( 2, 2, 3, 4, 3, 3 )   | 12 ( 10, 11, 4, 13, 11, 8 )   | 17 ( 5, 17, 12, 8, 7, 6 )     |
| 特許等(件数)                          |                                       | 0 ( 0, 1, 0, 1, 0, 1 )             | 0 ( 0, 0, 0, 0, 0, 0 )        | 0 ( 0, 0, 0, 0, 0, 0 )        | 0 ( 0, 1, 0, 1, 0, 1 )   | 0 ( 0, 0, 0, 0, 0, 0 )        | 0 ( 0, 0, 0, 0, 0, 0 )        |
| その他(件数)                          |                                       | 12 ( 14, 13, 6, 8, 12, 17 )        | 1 ( 1, 2, 1, 1, 1, 1 )        | 6 ( 3, 4, 1, 3, 3, 5 )        | 0 ( 1, 1, 1, 1, 1, 2 )   | 4 ( 8, 4, 2, 4, 6, 7 )        | 1 ( 1, 2, 1, 0, 1, 2 )        |

括弧内は過去6年の数値(令和4年度～平成29年度)

表7. 国際貢献の実績（教員グループ別）

| 区分     | 国際交流 |                |    |                | 国際学会 |                |    |                 |
|--------|------|----------------|----|----------------|------|----------------|----|-----------------|
|        | 運営   |                | 参加 |                | 運営   |                | 参加 |                 |
| 幼小・実セ  | 0    | ( 0, 0, 0, 0 ) | 0  | ( 0, 1, 0, 0 ) | 0    | ( 1, 0, 0, 0 ) | 1  | ( 2, 2, 1, 1 )  |
| 言語・社会系 | 0    | ( 0, 0, 0, 2 ) | 0  | ( 0, 0, 0, 1 ) | 0    | ( 0, 0, 0, 4 ) | 5  | ( 1, 2, 4, 4 )  |
| 理数系    | 0    | ( 0, 0, 0, 0 ) | 0  | ( 0, 0, 0, 1 ) | 1    | ( 0, 1, 0, 1 ) | 3  | ( 2, 2, 0, 1 )  |
| 実技系    | 0    | ( 0, 0, 0, 1 ) | 0  | ( 0, 0, 0, 0 ) | 0    | ( 0, 0, 0, 0 ) | 1  | ( 0, 0, 0, 1 )  |
| 教職大学院  | 0    | ( 0, 0, 0, 0 ) | 0  | ( 0, 0, 1, 0 ) | 2    | ( 0, 0, 0, 1 ) | 3  | ( 2, 3, 0, 5 )  |
| 合計     | 0    | ( 0, 0, 0, 3 ) | 0  | ( 0, 1, 1, 2 ) | 3    | ( 1, 1, 0, 6 ) | 13 | ( 7, 9, 5, 12 ) |

| 区分     | 交流協定             | 国際協力             | 研究者受け入れ<br>(共同研究) 等 | 外国語<br>のHP            |
|--------|------------------|------------------|---------------------|-----------------------|
| 幼小・実セ  | 0 ( 0, 1, 0, 0 ) | 0 ( 0, 0, 0, 0 ) | 0 ( 0, 0, 0, 0 )    | 4 ( 4, 5, 3, 4 )      |
| 言語・社会系 | 0 ( 1, 0, 0, 2 ) | 2 ( 0, 0, 0, 2 ) | 0 ( 2, 2, 2, 4 )    | 2 ( 4, 4, 3, 8 )      |
| 理数系    | 0 ( 0, 0, 0, 1 ) | 0 ( 1, 0, 0, 0 ) | 0 ( 1, 0, 0, 0 )    | 5 ( 5, 6, 0, 4 )      |
| 実技系    | 0 ( 0, 0, 0, 0 ) | 0 ( 0, 0, 0, 0 ) | 0 ( 0, 0, 1, 2 )    | 4 ( 4, 5, 7, 5 )      |
| 教職大学院  | 0 ( 0, 0, 0, 0 ) | 0 ( 0, 0, 0, 0 ) | 0 ( 0, 0, 0, 1 )    | 4 ( 11, 7, 6, 9 )     |
| 合計     | 0 ( 1, 1, 0, 3 ) | 2 ( 1, 0, 0, 2 ) | 0 ( 3, 2, 3, 7 )    | 19 ( 28, 27, 19, 30 ) |

括弧内は過去4年の数値（令和4年度～令和元年度）

表8. 地域・社会貢献の実績（教員グループ別）

| 区分     | 審議委員                  | 組織協力                  | 講習会等                     | マスコミ                  | 技術移転             |
|--------|-----------------------|-----------------------|--------------------------|-----------------------|------------------|
| 幼小・実セ  | 19 ( 16, 20, 12, 21 ) | 4 ( 4, 1, 6, 4 )      | 23 ( 32, 29, 21, 26 )    | 2 ( 2, 3, 3, 5 )      | 0 ( 0, 0, 0, 0 ) |
| 言語・社会系 | 26 ( 6, 8, 3, 8 )     | 1 ( 24, 13, 14, 12 )  | 19 ( 28, 28, 12, 22 )    | 9 ( 5, 9, 8, 11 )     | 2 ( 2, 3, 1, 0 ) |
| 理数系    | 12 ( 12, 11, 14, 14 ) | 1 ( 4, 4, 5, 6 )      | 11 ( 5, 6, 7, 9 )        | 0 ( 0, 0, 2, 3 )      | 0 ( 0, 0, 0, 0 ) |
| 実技系    | 5 ( 6, 10, 11, 23 )   | 4 ( 18, 14, 27, 20 )  | 6 ( 14, 15, 10, 21 )     | 0 ( 2, 1, 1, 5 )      | 0 ( 3, 1, 3, 2 ) |
| 教職大学院  | 6 ( 24, 25, 20, 14 )  | 30 ( 12, 18, 17, 16 ) | 29 ( 31, 49, 35, 49 )    | 7 ( 6, 5, 5, 2 )      | 0 ( 0, 0, 0, 0 ) |
| 合計     | 68 ( 64, 74, 60, 80 ) | 40 ( 62, 50, 69, 58 ) | 88 ( 110, 127, 85, 127 ) | 18 ( 15, 18, 19, 26 ) | 2 ( 5, 4, 4, 2 ) |

| 区分     | 社会参加<br>組織運営       | 社会参加<br>個人参加          | 公開講座                  | 共同研究                  | 指導助言                   |
|--------|--------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|
| 幼小・実セ  | 3 ( 1, 1, 1, 3 )   | 3 ( 1, 3, 2, 6 )      | 5 ( 1, 6, 5, 11 )     | 10 ( 9, 13, 9, 11 )   | 31 ( 52, 27, 22, 17 )  |
| 言語・社会系 | 2 ( 0, 0, 0, 4 )   | 4 ( 0, 1, 1, 0 )      | 8 ( 4, 8, 8, 3 )      | 12 ( 12, 11, 9, 13 )  | 22 ( 16, 17, 15, 8 )   |
| 理数系    | 1 ( 1, 2, 1, 2 )   | 2 ( 2, 3, 2, 3 )      | 1 ( 1, 0, 2, 3 )      | 3 ( 5, 2, 2, 2 )      | 14 ( 10, 7, 10, 11 )   |
| 実技系    | 0 ( 2, 0, 2, 3 )   | 0 ( 2, 2, 2, 4 )      | 3 ( 2, 4, 3, 1 )      | 2 ( 6, 7, 6, 9 )      | 10 ( 9, 9, 5, 36 )     |
| 教職大学院  | 5 ( 1, 3, 2, 4 )   | 4 ( 8, 5, 3, 3 )      | 2 ( 4, 7, 7, 8 )      | 7 ( 6, 8, 7, 8 )      | 19 ( 22, 35, 27, 21 )  |
| 合計     | 11 ( 5, 6, 6, 16 ) | 13 ( 13, 14, 10, 16 ) | 19 ( 12, 25, 25, 26 ) | 34 ( 38, 41, 33, 43 ) | 96 ( 109, 95, 79, 93 ) |

括弧内は過去4年の数値（令和4年度～令和元年度）

表9. 組織運営活動の実績(グループ・実践センター別)

| 区分                            | 幼小・実セ                          | 言語・社会系                      | 理数系                         | 実技系                         | 学部計                               |
|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|
| 学長特別補佐・評議員・全学委員等の活動・過半数代表（件数） | 6（ 4， 5， 2， 9， 9， 7）           | 19（ 18， 11， 7， 21， 15， 22）  | 14（ 9， 5， 1， 14， 12， 17）    | 19（ 25， 24， 18， 21， 17， 18） | 58（ 56， 45， 28， 59， 53， 64）       |
| 教育実践総合センター長・附属学校園長等の活動（件数）    | 4（ 2， 2， 2， 1， 2， 2）           | 2（ 2， 2， 1， 0， 2， 2）        | 0（ 0， 0， 0， 2， 2， 4）        | 1（ 1， 0， 1， 0， 1， 3）        | 7（ 5， 4， 4， 3， 7， 11）             |
| 学部・課程の委員・検討部会等の委員（件数）         | 48（ 39， 41， 26， 24， 20， 26）    | 22（ 26， 23， 16， 30， 32， 25） | 17（ 21， 13， 16， 18， 20， 30） | 24（ 23， 37， 29， 36， 33， 31） | 111（ 109， 114， 87， 108， 105， 112） |
| 教授会・委員会の出席実績                  | 4（ 6， 4， 3， 5， 5， 9）           | 5（ 6， 7， 5， 8， 6， 15）       | 5（ 5， 6， 8， 8， 6， 9）        | 7（ 8， 10， 10， 11， 10， 14）   | 21（ 25， 27， 26， 32， 27， 47）       |
| 大学や学部が開催する行事への参加時間数（時間数）      | 48（ 23， 147， 166， 6， 185， 115） | 11（ 8， 4， 8， 13， 24， 16）    | 23（ 31， 11， 4， 6， 16， 22）   | 34（ 44， 12， 9， 66， 79， 132） | 115（ 106， 174， 186， 91， 304， 285） |
| 学部の代表として全国・地区の会議・研修への参加（件数）   | 12（ 14， 14， 10， 5， 11， 10）     | 3（ 8， 3， 2， 5， 3， 7）        | 4（ 3， 0， 2， 2， 3， 4）        | 5（ 4， 8， 5， 10， 5， 9）       | 24（ 29， 25， 19， 22， 22， 30）       |
| 教養運営機構協議会委員もしくは部会長の活動（件数）     | 0（ 1， 4， 0， 1， 0， 0）           | 0（ 0， 0， 0， 3， 2， 4）        | 0（ 0， 0， 0， 0， 0， 1）        | 8（ 6， 1， 1， 2， 1， 4）        | 8（ 7， 5， 1， 6， 3， 9）              |
| 入試における出題委員・採点委員等（件数）          | 7（ 10， 13， 10， 5， 5， 4）        | 31（ 32， 26， 13， 11， 16， 27） | 8（ 5， 9， 4， 6， 4， 6）        | 14（ 17， 28， 28， 17， 17， 19） | 60（ 64， 76， 55， 39， 42， 56）       |
| その他（件数）                       | 6（ 9， 15， 7， 8， 6， 12）         | 9（ 1， 1， 1， 7， 6， 9）        | 4（ 5， 5， 1， 1， 0， 1）        | 6（ 5， 3， 5， 8， 8， 9）        | 25（ 20， 24， 14， 24， 20， 31）       |

| 区分                            | 教職大学院                            | 学部教職大学院計                           |
|-------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|
| 学長特別補佐・評議員・全学委員等の活動・過半数代表（件数） | 9（ 8， 2， 6， 7， 3， 5）             | 67（ 64， 47， 34， 66， 56， 69）        |
| 教育実践総合センター長・附属学校園長等の活動（件数）    | 0（ 0， 0， 0， 0， 0， 0）             | 7（ 5， 4， 4， 3， 7， 11）              |
| 学部・課程の委員・検討部会等の委員（件数）         | 30（ 34， 32， 43， 32， 25， 27）      | 141（ 143， 146， 130， 140， 130， 139） |
| 教授会・委員会の出席実績                  | 3（ 3， 3， 5， 4， 7， 11）            | 24（ 28， 30， 31， 36， 34， 58）        |
| 大学や学部が開催する行事への参加時間数（時間数）      | 141（ 22， 172， 280， 151， 345， 43） | 255（ 127， 346， 466， 242， 649， 328） |
| 学部の代表として全国・地区の会議・研修への参加（件数）   | 6（ 1， 2， 2， 2， 5， 5）             | 30（ 30， 27， 21， 24， 27， 35）        |
| 教養運営機構協議会委員もしくは部会長の活動（件数）     | 0（ 0， 0， 0， 0， 0， 0）             | 8（ 7， 5， 1， 6， 3， 9）               |
| 入試における出題委員・採点委員等（件数）          | 25（ 31， 31， 42， 33， 12， 12）      | 85（ 95， 107， 97， 72， 54， 68）       |
| その他（件数）                       | 12（ 7， 18， 7， 11， 13， 12）        | 37（ 27， 42， 21， 35， 33， 43）        |

括弧内は過去6年の数値（令和4年度～平成29年度）